

『裕福な役人からの質問』

'21/05/30

聖書箇所:マルコの福音書 10章 17-22節(新約 p.86)

先週に続けて、今日私たちは、この聖書のみことばが教えてくれている、最も大切な事柄である「救い」について学んでいきます。特に、私たちが今日のみことばに注目すべき理由は、ここで、イエス様は、ある人物の質問に答える形で、「永遠のいのちを得るための方法」について語ってくださっているからです。イエス様や、この聖書が教えてくれていることは、永遠のいのちに勝る恵み…、それ以上に価値あるものは無いからです…。そうじゃありません？

だって、私たち人間がいくら、この地上で価値ある物を手にできたところで、それらは、たかが、70年…、80年しか続かないじゃないですか！そうでしょ！…それに、いくら、この世の中で、役に立つような功績を残したところで、すべてを御支配なさっておられる、真の神様がそういうことを評価してくださらなかったら、そういうことは、本当に価値あることと言い得るのでしょうか？

命題:「永遠のいのち」を得るための方法について、ご一緒に考えましょう！

どうか、今日と来週のみことばが教えてくれている、私たち人間が最も考えるべきこと…、1番に優先すべき事柄について、耳を傾けてくださいますようお願いいたします。先程も言いましたように、今日と来週の礼拝では、私たちが永遠のいのちを得るための方法…、言いかえれば、罪の赦し(=救い)を得るための方法について学んでいきます。そうすることによって、願わくは、これらのメッセージを聞いてくださった皆さんが、最高の恵みに預かることができ…、残された人生を真の神様と一緒に歩いていくことを期待します。

I・イエス・キリストのことを、正しく理解しなければならない！(17-18節)

どうぞ、まずは、今日のみことばの内、17-18節に注目してください。このみことばが教えてくれていることは、私たちが永遠のいのちを得ようとするならば、**まずは、イエス・キリストのことを、“正しく”理解しなければならない！**ということなんです。…つまり、ざらっと、イエス様のことを知っているだけ…、あるいは、簡単に聖書のみことばを聞きかじっているだけでは、不十分だということです。…今から、そういうことを一緒に確認していきましょう。17-18節には、このように記されています。

17 イエスが道に行かされると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。

永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。」

18 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかに、だれもありません。

●この金持ちの 良かった 点

実は、このこのエピソードは、**マタイの福音書(19:16-30)**でも…、また、**ルカの福音書(18:18-30)**でも記されています。それらを見てみると…、この時、イエス様のところに来て、質問をした人物は裕福であっただけでなく…、『青年』(つまり、独身)であり…、と同時に、『役人』でもあったことが分かります…。『青年』(νεανίσκος)と言いましても、この当時は、40歳頃までを「青年」と言いましたので、恐らく、この人物は30歳代であったと思われます。しかも、この人物は『役人』であったと、ルカ伝には書かれてありますが、この『役人』(ἄρχων)という言葉は、この当時の裁判官や政治的な存在であった、「サンヘドリン」の議員を指すこともあったことから、彼が、かなりのエリートであったことは間違いありません…。

さて、そんなエリートが、イエス様のところへ来て、ある質問をしました。それは、『尊い先生。永遠のい

のちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか?』というものでした。まずは、この人物の“良かった”点を幾つか見ていきましょう。⇒まず、彼はイエス様のところへと、『走り寄って…』、近づいていったということが記されています。この、『走り寄って…』という言葉(προσπρέχω)は、新約聖書の中で、たった3回しか使われていないような珍しい言葉で…、この金持ちは、たまたまイエス様が近くに来ていたから、というような軽い気持ちからではなく…、イエス様に会うことを熱望していた！ということが分かります。つまり、この金持ちは、「どうしたら、自分が永遠のいのちを受けることができるのか?」という大切な質問を…、難しい質問だからと言って、決して、うやむやにすることなく、真剣に考えて…、それをイエス様のところへと持っていった、ということが分かるのです。

それだけではありません！この金持ちは、イエス様に対して、ある程度の尊敬と言うか…、かなりの敬意を払っていたことも分かります。どうぞ、17節をご覧ください。この金持ちは、イエス様の『御前にひざまずいて…』、その上で、今日の、この質問をしたことが分かります。この、「誰かに対してひざまずく」という行為は、特別な敬意を表わすような態度でありました。つまり、この金持ちは、イエス様に対して、特別な尊敬を持っていたのです…。まず間違いなく、この金持ちはイエス様に対して、わざと難しい質問を投げかけて困らせてやろうとか、あるいは、パリサイ人たちがイエス様に対して行なったような…、少しでもおかしなことを言おうものなら、陥れてやろうというような悪い動機からではなく…、真剣に、イエス様に対して、「どうしたら、永遠のいのちを手に入れることができるのか?」ということ聞きに来たのだ、ということが分かります。

そして、もう1つ…。この金持ちは、イエス様に対する、ある程度の正しい理解を持っていた、ということが分かります。…と言いますのも、今日のみことばの17節で、この金持ちが発した、『尊い先生！』という、『尊い…』という言葉(ἀγαθός)は、「内面の良さ、性質が優れている…」ということを表わす言葉で…、このことから、この金持ちは、イエス様というお方が、内面的な清さを持っておられる…、つまりは、イエス様が行ないだけでなく、道徳的にも清いお方である、信頼できる！という理解を持っていたことが分かります。…だからこそ、この金持ちは、自分の永遠に関する大切な質問を、自分が信頼の置けるイエス様のところへと持っていったのだと思われま。

●この金持ちの 悪かった 点

では次に、この金持ちの“悪かった”点について見ていきたいと思います。⇒まず第1に、この金持ちは、『永遠のいのち…』、つまりは、救いが、何らかの行ないによって得ることができる、と考えてしまっていた点であります。このことは、今日のみことばの17節で、『永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。』という質問をしていることから分かります。…この人物は、かなりのエリートでありましたから、恐らくは、その行動においても、結構な自信があったのでしょ…。

しかし、このような考え方は、実は、ここ日本でも似たようなものではないでしょうか?…と言いますのも、ここ日本でも、実は、多くの方たちが、「自分は、その行ないのゆえに、死んだら天国に行くであろう…」と大した根拠も無く考えている人たちが多いためです。実に、多くの人たちは、「自分は、地獄に連れて行かれるほど悪い人間ではないはずだ…」と考えておられます。でも、本当に、そうなのでしょうか？

確かに、私たち日本人たちの多くは皆、礼儀正しくて…、簡単には法に触れることをしないし…、親切で勤勉だとも言われますし…、全世界的に見れば、本当に良い民族であると、私も思います。でも、だからと言って、神は多くの人間たちのことを、その行ないのゆえに救ってくださるのでしょうか?⇒例えば、旧約聖書のレビ記 11:45 には、『…あなたがたは聖なる者となりなさい。わたしが聖であるから。』ということが、はっきりと命じられてあります。ここだけではありません。聖書の中には何か所か、これと同じような教えがあります。こういったことから何が分かるかと言いますと、神様の基準は、あくまでも神様御自身であって…、私たち人間の平均や、所謂、私たちが偉人と言って尊敬しているような方たちでもない！とい

うことです。だから、皆さんもよくご存知のように、ローマ 3:23 では、『すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができ(ない！)』ということが教えられてあります。私たちは、どれほど良い行ないをしたり…、あるいは、そこそこ良い人間になったとしても、そういったような行ないでは決して救われ得ないのです！ 実に、今日のみことばに出てくる、この金持ちはそういったことが分かっておりませんでした。

● 福音とは、イエス・キリストのことである！

そして、もう1つ…。この金持ちの問題は、イエス様に対する正しい理解が無かったことです。…確かに、この金持ちは、ある程度、イエス様に対しての正しい理解を持っていましたが、残念ながら、その理解は十分ではありませんでした…。そこが彼の問題点でありました…。

どうぞ、皆さん。今日のみことばの 18 節、イエス様の返答に注目してください。そこで、イエス様は、『…なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかには、だれもありません。』と言って、せつかく、この金持ちが自分に敬意を払って、良い言葉を使ってくれているのに、わざわざ、そのことを否定しているように見受けられます。これは、一体、どういうわけなのでしょう？

⇒実は、先程も言いましたように、ここで、この金持ちが口にした、『尊い…』という言葉(ἀγαθός)は、「内面の良さ、性質が優れている…」ということを表わしているのですが、本当の意味で、この言葉に当てはまるような存在は、究極的には神様だけです。そうですね？ だって、すべての人間は皆、醜い罪を抱えているのですから…。

ここで、イエス様は、その金持ちに対して、「本当に尊い御方は、真の神様だけです。あなたは、私を真の神だと思っているのですか？」という質問をされているのです。もちろん、イエス様は、真の神です！ 確かに、この聖書のみことばは、そう教えてくれています。…しかし、この金持ちは、そう信じてはおりませんでした。だから、この金持ちは、イエス様の質問に対して、答えることができなかったのです…。

良いでしょうか？ 皆さん。この聖書が教えてくれている「福音」、…つまり、良い知らせとは、イエス様のことです！ …イエス様の教え、イエス様がなしてくださった奇蹟、あるいは、イエス様の十字架と復活による救いのメッセージ…、そして、何よりも肝心なのは、イエス様の“正体”です。だから、この福音書を書いたマルコは、『神の子イエス・キリストの福音のはじめ。』(マルコ 1:1)と宣言して、そのイエス様が送られた生涯について…、また、イエス様の教えを詳しく書き記してくれたのです。

ちょっと、皆さん。もしできましたら、1ヨハネ 2:21-22 をご覧くださいませ？ ここで使徒ヨハネは、反キリストについての警告を与えてくれているのですが、ヨハネは、こんな風に教えてくれています。『21 このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくでたれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。』

⇒皆さん、聞いてくださいました？ 反キリストとは、イエス様のことをキリストであるということを否定する者たちのことなのです！ …と言いますのも、神が私たち人間に与えてくださった聖書のみことばは、このイエス様というお方が、間違いなく、約束の救い主＝キリストであられ…、真唯一の神であられるということ、をはっきりと証ししてくれているからです！

ですから、いくら、皆さんが、もしも仮に、イエス・キリストの研究者で、イエス様の送られた生涯に詳しくあったとしても…、あるいは、聖書や神学の理解に長けていらっやっても…、あるいはまた、皆さんがキリスト教の文化や歴史に通じていらっやったとしても…、もしも、イエス様のことを、ただの良い教師…、あるいは、素晴らしい歴史上の偉人であるという、その程度の理解しか持っておられないのなら、その人に救いはありません。私たちが救われるために必要なのは、このイエス様のことを真唯一の神、そして、あなた自身の救い主として、個人的に信じ受け入れることなのです。

II・自分自身のことを、正しく知らなければならない！ (19-21 節)

どうぞ、今度は、今日のみことばの内、19-21 節に注目してください。このみことばが教えてくれていることは、もしも、永遠のいのちを得たいと思うなら、私たちは、自分自身のことを、“正しく”知らなければならない！ ということです。19-21 節には、このように記されてあります。

19 戒めはあなたもよく知っているはずで。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』

20 すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」

21 イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

● イエス様の主張

イエス様のところへやって来た金持ちが、永遠のいのちを手にするための方法を質問しているのに、それに対して、イエス様は、突然、戒めのお話をされます。それが、ここ 19 節です。『戒めはあなたもよく知っているはずで。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』』って…。でも、一体どうして、イエス様は、永遠のいのちを願っていた金持ちに対して、こんなお答えをされたのでしょうか？ …だって、私たちの救いと律法の行ないとは、直接的には関係ないじゃないですか？

⇒…と言いますのも、例えば、ガラテヤ 2:16 には、はっきり、こう記されてあります。『しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。』⇒このように、聖書のみことばは、はっきりと、私たち人間が律法の行ないによっては、誰も義と認められない！ …つまり、救われ得ない！ ということを教えてくれています。その証拠に、私たち…、「もう2度と、罪を犯さないでおこう！」と誓ったところで、もうすぐに、罪を犯してしまうじゃないですか！ そうでしょ？ 例えば、イエス様は、マタイ 5 章で、『…だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。』(マタイ 5:28)という風に教えてくださいました。天の神様は、私たちが、ほんの少し…、ふと心の中をよぎってしまったような罪さえも数えられるような御方です。それほどまでに、天の神様とは聖い御方なのであり…、それゆえに、私たちは、『律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもない…』のです。

じゃあ、一体どうして、イエス様は、「救われる方法について教えてください！」と訊きにきた、この金持ちに対して、旧約聖書で教えられてある律法の教えを挙げられたのでしょうか？ これらの教えは、そもそも、旧約時代のモーセを通して、神様がイスラエルの民に与えたものであることは、皆さんもよくご存知だろうと思います。しかし、マタイ伝やルカ伝などを見比べてみますと、若干、そこに記されている順番などが違うのですが、いずれの場合も、「父と母を敬え！」という、本来ならば1番最初に出てくるはずの教えが、最後の方に来ています。しかも、皆さんもよくご存知のように、ここで挙げられている教えは、すべて十戒の中では、神様との関係に関する戒めではなく…、人間同士の関係における戒めです。そういったことから、ひょっとしたら…、この金持ちは、何か、人間関係において…、特に、両親とのことで何らかの問題があったのかも知れません…。

● **イエス様が、金持ちに 気づかせよう とされたことは？**

しかし、皆さん。この金持ちの反応について、どう思われます？⇒彼は、イエス様の返答に対して、20節、『先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。』という風に答えたのです。残念ながら、この金持ちは大切なことを理解できていませんでした…。彼は、天の神様が御定めになられた十戒の教えを、「自分は、完全に守り行なっている！」と言い切ったのです。しかも、『小さい時から…』って…。果たして、本当に、そうなのでしょう？本当に、この金持ちは、神様のみこころに達するほどの愛を持ち合わせて…、また、それを、小さい時から実践できていたのでしょうか？

その答えは、私たちが考えるまでもありません。人間誰だって、謙遜になって考えれば…、自分が、完全なる神様の基準に達するほどの愛や清さ…、あるいは、正しさなどを持ち合わせていない、ということはいくらも明らかです。だから、聖書のみことばは、ローマ 3:10 でも、『義人はいない。ひとりもいない。』と教えるのです。

良いですか、皆さん。神様が私たちに与えようとしてくださっている救いを、皆さんが受けようと願うなら…、私たちは、その前に、自分自身のことを、正しく知らなければなりません。自分という存在が、完全なる聖さを要求しておられる神様の基準とは全く違って…、自分という存在が、如何に罪深く…、義なる神様に受け入れられるには、ほど遠い存在である！ということ私たちが知らないといけないのです。ヘブル 4:13 では、こう教えられています、『造られたもので、神の前で隠れおせせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。』って…。神は、すべてを御存知なのです！

だから、イエス様は、ある時に、こんなことを教えてくださいました…。ルカ 5:31-32、『31 …医者を必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。32 わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。』⇒イエス様が、こんなことを言われたのは、ちょうど、この時、マタイが大ぶるまいをして、そこでイエス様と一緒に、多くの取税人たちが居たからです。それを見たパリサイ人や律法学者たちは、イエス様のことを非難します、「どうして、あなた方は、罪人たちと食事をするのか！」って…。しかし、それで良かったのです。だって、イエス様は、自分のことを義人だと称して、「私は良い人間だ！私は行ないで、自分自身のことを救える…」というような者たちのために来てくださったのではなく…、自分の罪を認め、「自分は罪の病に病んでいる…、私には救いが必要です！私には神の助け、神の憐れみが必要なのです！」というような者たちのためにこそ、来てくださったお方だからです。

Ⅲ・神の前に、正しい 選択をしなければならない！(21-22 節)

さて、最後に、永遠のいのちを持てるよう、今日のみことばが教えてくれていることは、神の前に、“正しい” 選択をしなければならない！ということ。21 節が、先程読んだ部分と重なりますが、今日のみことばの 21-22 節には、こうあります。

21 イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

22 すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。

● 私たちに託された 選択 !

どうぞ、もう1度、21 節に注目してください。ここで、イエス様は、『あなたには、欠けたことが一つありま

す。』とおっしゃって…、そして、ある1つのチャレンジを、この金持ちに与えられます。それが、『あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。』というものでした…。果たして、皆さんは、このイエス様のお言葉をどう思われます？⇒もしも、私が、教会に来られた求道者の方に、こんなことを言ったら、まず間違いなく、皆さんは驚かれるはずです。そうですね？…でも、イエス様は、そうお答えになられたのです。これは、一体、どういうわけなのでしょう？

まず、ここで、私たちがしっかりと理解しておくべきことは、イエス様は、この金持ちに対して、「あなたの持ち物を全部処分しないと、あなたは救われ得ません！」ということをお教えしておられない！ということです。もしも、そうだったら、イエス様は救いに関して教える時に、いつも、そのことを教えておられたはずですが、実際は、そうではありませんでした。もちろん、イエス様だけではなく…、12人の弟子たちも、あるいは、聖書のみことばも、人が救われるためには、必ず、その人の財産を処分しなければならない…ということをお教えしているわけではありません。

実は、イエス様は、こういったチャレンジを、この金持ちに与えることによって、とても大切なことを、この金持ちに気付かせたかったのです。そのことのために、敢えて、イエス様は、この金持ちにだけ、こういったチャレンジを与えられました。では、イエス様の意図と言うか…、その目的は、こういった点にあったのでしょうか？

実は、ここでイエス様がおっしゃられた内容を、マタイ 19 章のみことばは、もう少し詳しく説明してくれています。そこをみてみると、こう記されています。『18 …殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』(マタイ 19:18-19)って…。⇒皆さん、気付いてくださいました？実は、マタイの福音書だけが、十戒の戒めを紹介した後で、最後に、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ！』という、十戒の中には無い教えを紹介してくれているのです。

でも、もちろん、これは何かの間違いではありません。…と言いますのは、律法の教えを要約すると、こういった教えになるからです。ですから、例えば、ガラテヤ 5:14 では、このように教えられています。『律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という一語をもって全うされるのです。』って…。だから、イエス様だって、①『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』ということと、②『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という命令を挙げて、『律法全体と預言者(=旧約聖書)とが、この二つの戒めにかかっているのです。』(マタイ 22:40)という風に教えてくださったんじゃないですか。そうでしょう？

どうぞ、皆さん、もう1度、思い出してくださいませ？イエス様は、この金持ちに対して、十戒の教えを挙げて…、そして、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ！』(マタイ 19:19)という教えも挙げられたのです。すると、その金持ちは、20 節、『先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。』と返答します。⇒つまり、「私は、最高の律法を実践できています。私は、小さい頃から、私の隣人を、私自身と同じように愛しています！」と断言したのです！

しかし、イエス様は、実際は、そうじゃないことをご存知でした。だから、イエス様は、その金持ちに、こうおっしゃられたのです。「そうまで言うのですか。…だったら、あなたの持ち物を全部売り払って、貧しい者たちに寄付してご覧なさい。もし、あなたが言うように、あなたの隣人を、自分と同じように愛しているのなら、それができるはずですよ。…そうして、もしも、それができるなら、あなたは天に宝を積むことになります。その上で、わたしについて来なさい！」って…。⇒このように、イエス様は、この金持ちだけじゃない！私や皆さんに対して…、また、すべての者たちに対しても、同じような招きをしてくださっています。だから、イエス様の弟子たちは皆、すべてを捨てて、イエス様に従っていったのです。…ま、そういったことについては、また、来週の礼拝で、もう少し詳しく学んでいきたいと思います。

このように、イエス様は、常に、私や皆さんに問うておられます、「あなたは、例え、すべてを失ってでも、このわたしについてこられますか？」って…。もしも、皆さんが、このイエス様のことを、真の神…、唯一の救い主と信じるのなら、皆さんは、すべてを捨てても、このイエス様に付いていこうとされるはずです。…違いますか？ そういったことをイエス様は、ここで問うておられるのです。…もしも、本当に、この救いの素晴らしさを知って、「私も救われたい！」と心から願うような者は…、その人は、例え、何を犠牲にしても、その救いを手にしたいと願うはずだからです(マタイ 13:44-46)。

●この金持ちが 選び取った 選択とは？

しかし、この金持ちは、どういった選択を“選び取った”でしょう？ ⇒残念ながら、この金持ちは、イエス様が教えてくださったチャレンジを実践しようとはせず…、悲しみながら、そこを立ち去るわけです。なぜなら、この金持ちは多くの財産を持っていたからです。いえ！この金持ちは、永遠のいのちよりも、自分の財産の方を選んだのです。…そのことによって、この金持ちが、イエス様に対して答えた、「私は、小さい頃から、私の隣人を自分と同じように愛しています…」ということが偽りと言うか、不完全であったことが、明らかになったわけです…。

もちろん、イエス様は、こうなることをご存知でした。だから、イエス様は、こういった質問をされたわけですが…、でも、どうか、皆さん、誤解しないでください！…決して、イエス様は、こうなることを望んでおられたわけではありません。だから、どうぞ、今日のみことばの 21 節に注目してみてください。ここで、イエス様は、この金持ちに、何とおっしゃっておられます？『あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになりませう。そのうえで、わたしについて来なさい！』

⇒いかがですか？ 分かっていただけますか？…イエス様は、この金持ちに、正しいことをおっしゃられ、その上で、「わたしについて来なさい！」と“誘って”くださったのです！…イエス様は、決して、この金持ちを憎んでいたとか…、あるいは、ただ単に、彼の嘘を暴こうとして、こんな質問をされたわけではありません。その証拠に、ここ 21 節の前半に何とあります？ ⇒『イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた…』とありますでしょ？…イエス様は、この金持ちにも救われてほしかったのです！ 恐らく、イエス様は、この金持ちが、例え、この時には救われることを拒んで、去って行ってしまっても…、まずは、本当のことを知る必要があると考えて、厳しくはあっても、この金持ちに本当のことを教えるために、敢えて、こんなことをおっしゃられたのではないのでしょうか？…と言うのは、もしも、この金持ちが、自分の罪について気づかされたら、後々、その罪を悔い改めて、救われるかもしれないじゃないですか…。

<励ましの言葉>

でも、イエス様は、この金持ちのことを愛してはいても…、また、この金持ちに救われて欲しいと願ってはいても、だからと言って、無理矢理に、この金持ちの意志に反して、救うことはなさいませんでした。…と言いますのも、イエス様を信じるかどうか…、あるいは、神様に従っていくかどうか？ というのは、神が私たち一人ひとりに託された…、選択であり…、責任であるからです。

そのような責任は、この金持ちだけではなく…、私にも、また、皆さんに対しても同様に与えられています。私たちは皆、自分自身で、自分の歩んでいく道を…、神様に従うか、それとも、自分自身の考えや欲望に従っていくのか…、そういった選択をしないとけません。それは、神が私たち一人ひとりに与えられた自由であり…、同時に、私たちが決して逃れることができない責任でもあるのです。

イエス様が願っておられること…、また、天の神様が今日、皆さんに対して願っておられることは、皆さんが1日も早く、イエス様の正体を知って…、自分の罪を悔い改めつつ…、そのイエス様のことを信じて救われてくださることです。それ以外に、救いの道はありません。

イエス様の弟子であったペテロは、こう教えてくれています。Ⅱペテロ 3:9、『主は、ある人たちがおそいと思つているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。』って…。神の前には、たった1人でも、罪の裁きに下って…、滅んでしまつてよい人など居りません。神様は、あなたが救われることを、今も期待して、このメッセージを聞くように導いてくださったのです！…だから、どうか、これ以上、神様を拒むのではなく…、1日も早く、イエス・キリストを真の神、唯一の救い主と信じて、この救いの恵みに預かっていただきたいと思つています。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。